

■R03.01.05 記者会見内容

日時 令和3年1月5日(火) 午前11時～午前11時30分

場所 第2委員会室

出席 市長、総務部長、企画部長、企画調整課長

酒田記者クラブ8社(山形新聞、荘内日報、読売新聞、河北新報、朝日新聞、毎日新聞、NHK、SAY)

■懇談・フリー質問

記者／今年度、新型コロナで先を見通せないところであると思うが、酒田市として、どういったまちを目指していくか、どういったプロジェクトを動かしていくか。

市長／改めまして、あけましておめでとうございます。今年もどうぞよろしくお願ひします。

年末から新型コロナウイルス感染拡大、特に酒田でクラスターが発生したり、更には豚熱も起きて、この地域としては混乱した思いを持っている。年末年始、大雪ということもあるが、休む間もなく仕事に就いた市職員もかなりいて、大変な年末年始だったという思いがある。

一方で、昨日の菅総理大臣の記者会見にあったが、1都3県は大変な状況で、今週中にも再度の緊急事態宣言が出ようかという状況の中で、この酒田も油断することなく新型コロナウイルス感染拡大がこれ以上進まないような努力を地域を上げてやっていかなければならないという思いを持っている。ちなみに1年前は年頭の記者会見のとき、「田舎暮らし」という本の中で、住みたい田舎のベストランキングということで、「シニア世代が住みたい田舎」第1位にランキングしたということで、私も浮かれて話をした記憶が少しある。今年は残念ながらシニア世代が住みたい田舎ということでは、3位にランクダウンした。これは、点数化して評価するわけだが、項目の変更があり評点が少し下がって惜しくも3位にはなった。10万人以上の都市で、いずれにしても第3位という高い評価をいただいているということで、我々のまちづくりが基本的に成果を上げてきているという思いの中で、これからも頑張っていきたい。そのことを職員とも共有させていただいた。

そうした中、年が明けて令和3年だが、どういったまちづくりをするかというところ、今までやってきた仕事はかなり実を結ぶところが出てくる。代表的なところで言うと、保育機能の充実を図るために取り組んできた「みなと保育園」がオープンを迎える。それから旧割烹小幡跡に整備している日和山の交流観光拠点施設、これもカバーが取れて、きれいな洋館の外観が年の暮れに見れるようになったが、年内にオープンを迎える。それから新しい産業会館、そして新しい消防本部本署の庁舎、これも今年竣工を迎える。更には、昨年暮れに総務省から採択を受けて、飛島への海底光ケーブルの敷設も国から通知が来れば契約を結んで工事に入る。これも令和3年中ということになっている。それから何と云っても山居倉庫。2月に入ると正式に官報に載るこ

とになるが、国から史跡指定を受けて決まれば、それを受けて山居倉庫の利活用計画の策定とか、周辺の整備、道路を挟んで向かい側の旧酒田消防本署跡地に対する移住・定住者向けの施設とか、川を挟んで旧酒田商業高校跡地に商業施設的なものを整備するといった計画もあるわけだが、そこに乗り出す開発事業者を公募するという作業が今年出てくる。これまで仕掛けてきて、去年このまま順調に進むのかなと思った様々なプロジェクトが、令和3年になってもう一度動き始めるというか、具体的に着手という形で進んでいく、そういう節目の年になると思っている。

一方で、教育環境でいくと、GIGAスクール構想、これは酒田に限った話ではないが、小中学校で一人一台パソコンが整備されるということで教育環境が整う。それを受けて、教育研修センターを新しい部署として立ち上げて、今の総合文化センターの2階にそのスペースを設けようと思っている。教育研修センターという部署を新たに作って、その中でパソコン教育だけでなく、理科教育とか語学教育とか、先生方のいろいろな学習指導の技術を育てるための部署の新設をして、教育環境の充実を図っていきたいと思っている。

そういう意味では令和3年度に非常に大きな事業が目白押しだが、一方で新型コロナの収束の目途が立っていない。昨日の菅総理大臣の記者会見を見ていると、2月下旬からワクチンの接種を始めていききたいという話をしていた。ワクチン接種に向けては、しっかりとした体制を組んで望んでいきたい。まずはワクチン接種を市として責任をもって、市民の皆様に接種できる体制をしっかりと作っていききたい。来週早々にプロジェクトチームを4名の体制で立ち上げる。去年の国の特別定額給付金の際もそうだったが、特別な部署を立ち上げないで、プロジェクトチームで処理をした経緯がある。今回もプロジェクトチーム4名を来週12日からスタートさせる。事務的な作業の段取りを組んで、そのうえで実際に接種が始まれば、接種の関係のチーム、あるいは4月に向けては、それなりの部署を立ち上げることもあるかもしれないが、2段構えで市民への接種体制を整えていきたい。

これが今年力を入れる主な施策と思っているが、もう一つ、デジタル変革戦略室を昨年度立ち上げて、この3月に酒田市のデジタル変革戦略を策定する予定。骨子案については既に12月に議会に示しているが、正式な戦略として3月にはまとめたと思っている。これに基づいて、市民サービスや地域、行政のデジタル変革の推進を全庁的に取り組んでいきたい。いわゆる全部局において、デジタル変革を意識した事業、更には業務の組み立てを図ってもらいたいという意味で、先ほどもビッグプロジェクトの話をしたが、ソフト事業も含めて、まずはデジタル変革というフィルターを通したうえで、実際に具体化に向けて動き出したいという思いを持っている。

今年は、ある意味大きな変革の年という思いを持っている。我々地方行政にとっても重要な年になるかと思っている。これまでやってきたことの延長で花を開くものもあるが、根本的には社会の潮目が変わる年、そんな年ではないかなということ、それに向けて、市役所、市全体の大きな節目を迎える年ではないかという思いを持って

いる。デジタル変革についていうと、今年は、一気に完成形に持っていくのは難しい話なので、いろいろな試行錯誤が出てくるかなと思う。試行錯誤を繰り返しながら、今後の社会、Society5.0に向けて、しっかりと取り組んでいきたい。

先ほども部長会議でワクチン接種の体制については議論させてもらったが、まだまだ決まってない所がかなりあって、国からの情報もあまりきていない。昨年の特別定額給付金の体制をより拡充する形で準備作業を進めていきたい。

記者／ワクチンの関係でプロジェクトチームの4人は部署横断的に集めるのか。

総務部長／今のところ、特別定額給付金のチームを中心に、総務部、健康福祉部、教育委員会から4名を集めて立ち上げる。クーポン券を印刷して配布するので、前の特別定額給付金と同じようなスキームで最初は流れるかなということで考えている。中町庁舎で来週12日の火曜日から事務を行う。人手が必要な場合は、特別定額給付金と同じ形で部局横断的に手伝いしながら事務作業を進めたい。

記者／プロジェクトチームで横断的にやって準備を整えて、実際動くときには担当部署か。

総務部長／実際にワクチン接種をする場合は健康福祉部が中心となって、医師会、病院等と協力しながら接種をしていくが、それまでの間は事務作業が中心となるので、今までのノウハウがある特別定額給付金のチームと同じような形で立ち上げて先行してやっていこうと思っている。

記者／国から具体的なものはないと思うが、接種が始まった時にすぐ対応できるようにするのか。

総務部長／対象は全市民。国からフォームが示されている。発送作業のための業者選定など事務作業を進めていきたい。

記者／ワクチンを保存したり設備的な要件があると思うがそういったものも準備するのか。

総務部長／そういったものはこれから。医師会との打ち合わせも明日以降開かれる予定。接種をする際は別の専門的な部署が必要となってくる。それは健康福祉部が中心となって接種に向けたチームを作っていくことになる。

記者／接種場所も想定されてないか。

総務部長／今のところファイザー社のワクチンだと、マイナス70度以下で保存しなければならない。各自治体には3基くらいずつ保存の冷凍庫が来るかと考えているので、医院などで個別接種は難しいと考えている。その辺は健康福祉部が中心となって医師会と協議しながらどういう形でやっていくのか今後検討していくかと思う。

記者／酒田市としては日本海病院などあるがそこでの調整も含めてということか。

総務部長／そのとおり。当然、日本海総合病院はかなりの医師、看護師職員がいるので、協力を得ながら進めていく必要がある。

市長／優先順位などあるし、接種し終わるまでの期間をどのくらいとったらいいか、

後々のデータとしての管理も必要。特別定額給付金のように一気に 10 万円交付して終わりということではないので、ある一定の期間、体制を作りながら見ていかないといけないと思っている。国も何も決まってない部分が多いので、走りながらということになるが、まずは 10 万人に対して通知をすとか、それに対する契約行為とか、様々な事前準備があるので、それは来週から立ち上げたい。当然のことながら予算化も必要になる。特別定額給付金の場合は、酒田市の場合 100 億円近いお金が国から来るがトンネルで出さなければならないので、予算にも盛らなければならない。そういう構図になるかどうかを含めて、1 月 2 月で詰めていかなければならない。その辺の作業も同時進行でやりながら準備を整えていきたいと思っている。

記者／国や県から準備をしてほしいと要請があったわけではなく、自主的に先んじて準備をしているということか。

総務部長／各市町村同じような形でやっていると思うが、酒田市も同じようにやっている。市長が言ったように予算化も必要なので、しかるべき時に議会を開催して予算化をしていきたい。

記者／コロナ関係について年末での記者会見では帰省について慎重に判断してほしいと呼びかけしていたと思うが、1 都 3 県で近々緊急事態宣言が出される見通しがたったことに関連し、1 都 3 県との往来について、内部での体制、出張の制限とか、市民に対してはどういったことを呼びかけていくのか。

市長／権限がないのでお願いでしかないが、収束の目途が立つまでは、基本的に不要不急の要件については、首都圏に出向くことや、向こうからやってくることについてはご遠慮願いたい。地域経済も 11 月中旬から酒田でクラスターが出たことで、少し勢いを失ったところもあるので、地域の皆様がルールを守って、飲食をしたり、少人数でやったり、マスクをする、手指消毒をしっかりとするというを守ってやっていただくことには、ロックダウンのような体制を組まなくても酒田市としてはいいかなと思っている。PayPay キャンペーンが終わって地域経済もやはり復活させなければならないということもあるので、あまり自粛自粛ということではなくて、ルールを守って少しずつ経済再生に向けて踏ん張ってもらえたらと思っている。ただ緊急事態宣言が 1 都 3 県に出れば、そこの行き来は控えざるを得ない。特に市職員の出張についても一定程度避けた形で業務執行にあたってもらいたい。なお、山形県自体がどうなるかということもあるし、それについては市の対策本部の中で、市職員、地域での行動規制についてお願いということになると思う。あるいは公共施設の閉館等についても対策本部の中でしっかりと議論しコンセンサスを得たうえで、市民の皆さんに示していきたい。

記者／明後日に告示が迫った県知事選挙について、市長は新人候補の支持をしたかと思うが、支持をした理由と今後どのように支援をしていくか教えていただきたい。

市長／支持を決めた理由ということになるが、基本的に言うと政治姿勢とか酒田市の地

域課題への取り組みに関して共感すべきものがあったので、新人として立候補している大内さんを支援したいと表明させていただいた。本市でいうと、例えば東北公益文科大学の公立化、これについてはお二方とも公約に掲げているので、十分この地域の課題に理解いただいている。それから港湾振興についてもしっかりと両者とも掲げていたのでそれは全く甲乙つけがたいところだった。最終的には、旧酒田工業高校跡地の整備の関係だとか、水道事業の垂直水平統合、いわゆる県の組織を巻き込んで、酒田、鶴岡、庄内町も含めてやる県の用水供給事業から用水を受けている事業者と県の用水供給事業を広域統合して1つの水道事業として再構成するという流れになるが、そのことについてもしっかりと認識をしていただいていたということ。酒田も鶴岡も同じだと思うが、県営の施設が庄内にはあまりない。体育施設とか文化施設とか、少し大きなコンベンションが開かれるような施設とか、市単独では持ちえないくらいの一定の規模感があるような施設整備、これを庄内の地にやってもらいたい。これについて、問題意識を持っていたのが、大内候補かなということが、最終的に判断するきっかけだったと思う。国政との一体感とか、各市町村それぞれ課題は持っているが、それぞれに一緒になって協働して課題に取り組む。若干現県政については、もう少し力を出してもらいたいという面があった。そういった意味では新人候補の方にそこを期待するところがあったということで、今回の立ち位置については判断させていただいた。新型コロナの関係でだいぶ酒田も地域経済が疲弊している。産業振興、健康福祉・医療、教育それぞれの面で国政との一体感だとか、あるいは県としての強力なリーダーシップこれを今度の知事には期待したいと思っている。

記者／クラスターが出てから酒田市の地域経済が落ち込んでいるということに関連して、先月に追加経済対策したばかりで、新年度予算の査定の最中とは思いますが、今後市独自の新たな経済対策を考えていることや方針など決まっていることがあるか。

市長／今のところは具体的なものは固まっていない。PayPayのキャンペーンが12月で終わった。8億円予算化したが、現時点では6億5,000万円の見込み。これも国の交付金を財源にしていた。その後に飲食店とか、タクシーなどの運送業に対して追加の経済対策を打ったが、今後の新型コロナの感染拡大状況を見ながら、新たな手を打たなければならない状況になれば、交付金を財源として何らかの手をもう一度打たなければならないかなという思いはある。まずは年末年始、年を越した中で地元の様々な事業をやられている方々の状況がどうなのかと少し状況を把握する時間をいただいて、これは大変だなということであれば、臨時議会とか、2月の下旬になれば3月定例会が始まるので、この辺りを目途に何らかの手を打たなければならないという思いでいる。